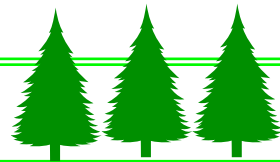


みつぎ便り



第240号 9月号 令和9年8月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ツクツクボウシ

秋の気配が濃くなると見次公園にも「ツクツクホーシ」と独特の鳴き声が聞こえます。声の主は黒色地に暗緑褐色の透明な翅のツクツクボウシというセミです。七月には成虫となりますが、まだ数も少なく鳴き声も他のセミにかき消されて目立ちません。他のセミが少なくなる八月下旬から最盛期を迎え、鳴き声が際立ち、夏の終りを告げます。

セミは一週間しか生きれないといいますが、実は長生きな生き物です。セミの幼虫は七年も土の中で過ごすのです。幼虫期間が長いのは理由



があります。樹木には根から水を吸い上げる導管が有りますが、セミの幼虫はこの導管から水分を取っているのです。ただ、導管を流れる水にはわずかな栄養分しか無いため成長に時間がかかるのです。

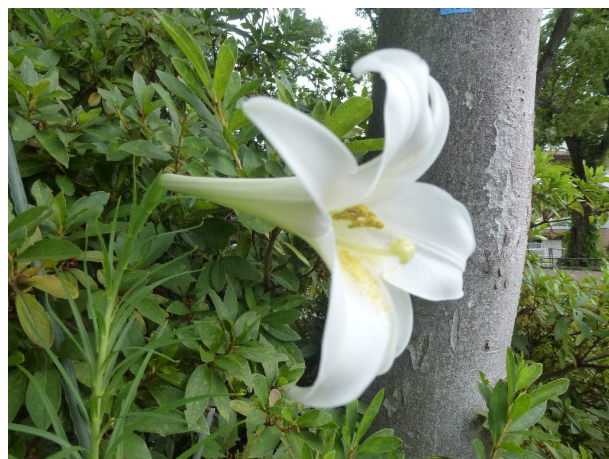
準備が出来た幼虫は、天敵の鳥たちが活動しない暗いうちに地面から這い出て木の幹や枝につかまり羽化して成虫となります。夏を謳歌するかのように見えるセミですが、地上で見られるセミの役割は次の世代を残すことです。雄は大きな声で雌を呼び寄せ、雄と雌がつがいとなり、交尾を終えた雌は樹皮や枯枝の中に産卵します。卵からは約三百日後の梅雨の時期にごく小さい幼虫が生まれ、地面の下に潜り込み次の世代が始まるのです。

(薫)

テッポウユリ

見次公園の池側の細長い花壇に、ユリが今年も咲いてくれました。植えっぱなしのユリですが、少しずつ増えてきて、初夏の公園散歩を楽しませてくれています。北側の崖面にも、昨年一畝位の丈のオレンジのオニユリが咲きました。あつという

間に散ってしまいました。ところが今年は池のそばの植え込みの中に、二輪ほど白いユリが緑の草木をバックに、それはそれは美しく咲きました。残念ながら、一週間も経たないうちに枯れてしまい、茎だけになっ



(静)